



祐介の目

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.95

毎月1日号に掲載

際に猟銃を分解組み立てする等、緊張感のある試験であった。合格後は公安委員会による初心者講習と試験、射撃練習、ハンター保険加入等、実際に猟銃を所持するにはかなりの根気と時間と費用がかかる。

狩猟免許試験

山野峡大田ワイナリーのぶどう畑の収穫時期が近づくと、有害鳥獣による被害が気になります。サル、イノシシ、アナグマ、カラス等が虎視眈々とぶどうを狙っている。そこで攻撃は最大の防御?と考えて社員と一緒に狩猟免許試験に挑戦した。社員はわな猟免許、私は猟銃免許と役割分担したが、福山での試験は年一回しかない。

まず試験前の講習会に参加したが、受講者は60人くらいで高齢者が目立つ。苦勞して育てた農作物の被害を食い止めたという思いの方が多いのだろう。若い人や女性の姿もあり、猟銃の講習会参加者は15人程度若く男性であった。しかし、年一回という事を考えれば決して多くない。なお、この講習会に参加すれば試験合格はほぼ間違いない。一週間後の広島県主催の試験では適性試験、知識試験、技能試験とあり、実

猟銃免許には第一種猟銃(散弾銃)と第二種猟銃(空気銃)がある。さらに散弾銃を所持して

10年経たないとフル銃は所持できない。私が子供の頃に発生し日本中を震撼させた三菱銀行人質事件以降、猟銃所持者は激減し当時50万人いた所持者は現在20万人を切り、うち6割が60歳以上である。この傾向に反比例して有害鳥獣被害が増加していると言える。市議会でも毎回のようになんか有害鳥獣対策に対する質問をするが、誰かが行動しない限り机上の空論を繰り返すばかりである。今回自ら受験することにより様々な課題が見えてきた。これを市政に反映させる方策を提案したい。

現代の狩猟の様子に興味があればyoutubeなどで観られる。野山を駆け巡り野生動物と真剣勝負を行い、その後のジビエ料理を楽しむなど、あなたも来年の狩猟免許試験に挑戦してほしい。